

## Blackboard を使ってみて

山下 王世

## 1. はじめに

ここでは、立教大学に導入されている学習支援ツール Blackboard の活用事例を報告する。筆者は Blackboard 初心者であり、紹介事例はどれも、きわめて初歩的な内容であるということを先にお断りしておきたい。私が Blackboard を使い始めたのは 2012 年度前期で、まだ 1 年もたっていない。前年度までは、出席管理、教材配布、ディスカッション等の機能を中心に、CHORUS を活用してきた。Blackboard を使ってみた感想としては、CHORUS よりも多機能で、様々な使い方が可能ということである。ここでは私が本年度、Blackboard を実際に使ってみて、良かったと感じた点をご紹介しますと思う。

## 2. 複数教員が参加する授業での使用例

Blackboard は、複数教員が参加する講義で、リアクションペーパーや成績等を共有する際に便利である。

### (1) リアクションペーパーの共有

全学共通カリキュラムの主題別 B に分類される授業では、複数の教員が参加する。全回出席する専任教員が 2 名、特定回に参加くださる兼任講師の先生方、さらには数名のゲストスピーカーと多彩である。筆者がコーディネーターを務める授業では、受講生に毎回、リアクションペーパーを書いてもらっているが、

この手書きのリアクションペーパーを次の授業までの 1 週間という短い間に、学内のみならず学外も含む複数の兼任講師やゲストスピーカーに回付し、読んでもらうことはほとんど不可能である。しかもリアクションペーパーには、学生の個人情報が含まれるので、コピー作成や受け渡し方法にも注意を要する。しかし Blackboard を使えば、このような状況を比較的簡単に解決できる。

私はリアクションペーパーを回収したら、スキャンして PDF ファイルを作成している。スキャナの自動給紙装置を使えば、PDF ファイルの作成は 1 分もかからず終了する。次に、PC で Blackboard の当該授業のサイトを開き、「コースコンテンツ」にその PDF ファイルをアップする。この PDF ファイルの閲覧権限を「教員」としておくと、学生はこのファイルにアクセスすることはできず、教員だけで共有できる。これで Blackboard のサイト上で、学外の先生方もリアクションペーパーを読むことができるようになる。とはいえ、Blackboard に不慣れな学外の先生方に PDF ファイルのありかを探していただくのは気が引ける。しかし Blackboard では、そのような手間も生じない。アップしたファイルには、自動的に URL が割り振られるので、その URL をメールで関係教員にお知らせすればよいだけである。各教員は、メールで知らされた URL をクリックして、V-Campus の ID とパスワードを入れるとすぐにその PDF ファイルを読むことが出来る。PDF ファイルを学外や自宅で読んだとしても、ファイル自体は常に Blackboard 上の保

存されており、各自の PC にダウンロードする必要はとくに生じないため、個人情報対策も万全である。

## (2) 成績情報の共有

情報の共有は、単に PDF やワードといったファイルだけでなく、成績内容でも可能である。Blackboard では、成績内容のアクセス権限を自由に設定できる。学生に開示しない場合は、アクセス権限を「教員」に限定する。「教員」に限定すると、この授業に登録されている教員だけが Blackboard 上で成績を入力したり、閲覧したりすることができる。Blackboard 上で当該科目の「成績センタ」にアクセスすると、学生番号と名前が入力された成績表が現れる。便利なのは、その右側の列に、自由にいくつでも欄を追加することができる点である。たとえば、オムニバス形式の授業で複数の教員がそれぞれ試験問題を作成し、各教員が自分の担当箇所を採点し、後で合算する場合、Blackboard を使うと安全でありかつ便利なのではないだろうか。試験の採点時に各教員が自分の担当箇所の採点を行い、Blackboard 上の成績表にそれぞれ点数を入力する。そうすれば、Blackboard が自動的に合計点を算出してくれる。Blackboard を使うことで、複数の教員間で学生の成績を受け渡す手間や情報漏えいの危険性も回避できる。あるいは、複数ではなくひとりの教員で担当する授業の場合、最終的な成績評価を、複数の評価項目、例えば、①出席、②各回のリアクションペーパー、③期末レポート試験、といった要素を合計して算出する場合にも、Blackboard の自動計算機能付きの成績表は便利なのではないだろうか。

## (3) 個人情報対策

私はレポート試験以外のレポートは、Blackboard へ提出させるようにしている。レポートの種別を、「成績評価の対象とするレポート」と設定しておく、Blackboard 上の成績表にこのレポートの成績評価欄が自動作成される。教員が Blackboard 上でレポートを読み、点数をつけると、その点数は自動的に Blackboard 内の成績表の列に入れられる。レポートも成績表も、研究室や自宅の PC にダウンロードする必要はなく、全ての作業が Blackboard で行われる。学生の成績情報は全て Blackboard に入っているのだから、あってはならないことだが万が一 PC を紛失しても、個人情報流出を流さしてしまう危険性はない。

これとともに Blackboard で大変重宝するのが Web フォルダである。Web フォルダは、Blackboard 上に作成されるオンラインフォルダであり、私はオンラインストレージとして使っている。この Web フォルダに保存したファイルは、Blackboard のコンテンツコレクションに保管されているが、必ずしも Blackboard のサイトを開いて保存箇所にたどり着く手順を取らなくてもよい。自分の PC のデスクトップにショートカットを作成できるので、そこから簡単にアクセスすることができる。私の場合、自宅と大学の PC それぞれのデスクトップにショートカットを作成して、両方の場所で作業する可能性のあるファイルは全てそこに保存している。とくに大学の業務に関連しかつ個人情報を含むファイルは全てこのフォルダに入れ、自分の PC のハードディスクには保存はしない。V-Campus の ID とパスワードを入力すれば、デスクトップ上のショートカットフォルダから Web フォルダの中身にアクセスできるので大変便利である。

### 3. 演習(ゼミ)等での使用例

Blackboardは、演習(ゼミ)でのグループ学習のサポートにも有効である。Blackboardでは、全履修者をいくつかのグループに分け、各グループに属する学生たちと教員だけが参加できる限定公開のサイトを作ることができる。そのサイトを通して、授業時間以外に進められるグループ学習を教員が見守ることが可能である。

#### (1) グループ学習のサポート

入門演習(ゼミ)のような授業では、たとえば25名の履修生を5名ずつのグループ5つに分けて、グループ発表をさせることがある。各グループは与えられた課題について図書館で調べ、関連施設を視察し、発表のポイントを話し合い、レジュメとパワーポイントを作成した上で決められた担当日に発表を行う。とくに1年生は演習(ゼミ)の発表準備に不慣れであるため、学生たちには自分たちの準備状況、すなわち、サブゼミや図書館での資料収集、関連施設見学の内容、さらにはレジュメ作成やパワーポイント作成の進捗状況についてBlackboard上のグループ専用サイトに報告してもらうようにしている。5つのグループ各々の準備状況を見守ることができ、またこうすることで適切なタイミングでの助言もよりやすくなっていると感じている。

#### (2) 特定の学生と教員だけのワーキングスペース構築

科目によっては、履修生全員ではなく、特定の学生だけと共同作業や情報共有をしたい場合がある。そういう場合もBlackboardのグループ機能が便利である。BlackboardでもCHORUSでも、たとえば史学科の「卒業論文(制作)・

卒業論文(制作)指導演習」のような科目は、全教員(16名)と、各教員をアドバイザーとする全履修登録学生(150名~180名)がまとめて登録されてしまう。しかしBlackboardでは、この大集団の中から自分をアドバイザーとする履修登録生だけをピックアップしたグループを作成することができる。このグループ内でも、日誌、ブログ、ディスカッション、掲示板、ファイル交換等の機能を使うことができ、進捗状況の報告や情報交換を行うことができる。今年度、筆者は、自分のゼミに所属する卒論生全員について、個人指導の進捗を書き込んでみた。記載された内容は、山下ゼミに所属する者だけに公開するように設定した。ゼミ生たちは自分の進捗状況と次にすべきことをこのサイトで再確認しつつ、また同時に、同じゼミに所属する仲間の卒論の進み具合と自分の進み具合とを比較しつつ、良い意味で励みにしてくれたようである。

### 4. まとめ

Blackboardの利点のひとつは、様々なファイルや情報を共有する際に、誰と共有するのかを設定できる点にあると思う。この点は、掲載されるファイルや情報が、登録されている教員と履修生全員に自動的に共有されてしまうCHORUSとは大きく異なるのだと思う。

Blackboardでは、「学生と共有する情報」と、「教員だけで共有する情報」を設定できる。さらに学生を対象とする場合には「特定のグループの学生」、または「学生個人」というように的を絞ることが可能であり、授業の性質にあわせてきめ細かな学習支援の可能性を広げている。一方、「教員だけで共有する情報」を設定できることで、教員はその授業に関連するファイル類をBlackboard上の一箇所に集約しておくことができる。

筆者は、授業関連のファイルを自分のPCのハードディスクに散在させてしまう傾向にあったが、現在は、Blackboard上の当該科目のサイトに保管しておくことにしている。万が一、PCがクラッシュしても、授業関連ファイルはBlackboard上にあるので安心である。

Blackboardは扱いはじめると奥が深い。事前に全ての使用事例が想定され、きっちりと固定されているわけではない。活用方法やそこから得られる効果について、教員に考える余地を与えてくれる、クリエイティブなツールであると思う。しかしこのBlackboardの特徴が、私のような初心者には分かりにくさに見えることもある。教員どうしが気軽に情報交換することのできる機会や場所があるとよいのではないだろうか。

やました きみよ  
(本学文学部准教授)